

平成27年9月8日

No. 52

日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

APRSAF-22 水ロケット大会

日立理科クラブ・「かぐや」特別奨励賞受賞

水ロケットや宇宙について興味をもち、宇宙への夢、好奇心と探求心のある中学2年生から高校1年生を対象にした海外派遣プログラム「APRSAF-22 水ロケット大会」の国内選抜が行われました。APRSAF-22とは、第22回アジア・太平洋地域宇宙機関会議の略称です。そして、宇宙教育普及の一環として水ロケット大会が、今年の11月28日・29日にインドネシア・バリ島で開催されます。日立理科クラブでは、毎年実施している水ロケット大会や水ロケット教室の参加者、理数アカデミー受講生の中から3チーム選出し、5月29日締め切りの第1次審査に応募しました。参加チーム(1チーム2名)は次の通りです。

- チーム名「ひまわり」… 根岸凜太君(日立一高・1年)、渡邊健生君(豊浦中・3年)
- 〃 「はやぶさ」… 三好元太君(茨城中・2年)、川井敦也君(日高中・2年)
- 〃 「かぐや」… 中田隆盛君(十王中・2年)、柳田綾乃さん(駒王中・2年)

第1次審査は、課題作文による書類審査です。課題は、

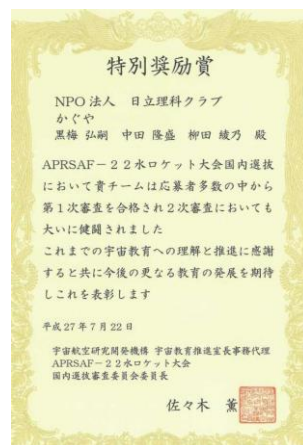
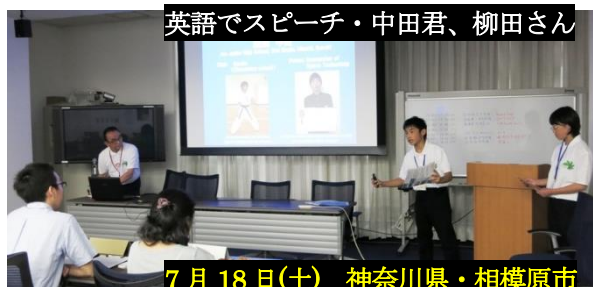
- ① 「水ロケットと私」 ② 「もし日本代表に選ばれたら、水ロケット大会の経験をどのように友人や周りの人に伝えますか。」

です。水ロケット発射実験の強烈な印象、水ロケットに関する研究、ロケット工学への興味、ロケット教室での体験など、生徒自身の思いを込めた文章が綴られました。たくさんの応募の中から、第2次審査に残ったのはわずかに6組だけです。日立理科クラブからは、「かぐや」が見事に選出されました。2次審査は、面接審査及び水ロケット打ち上げ実技審査で、神奈川県相模原市にあるJAXA相模原キャンパスで行われました。面接審査は5分間の持ち時間で、自己紹介及び地元の紹介を英語で行います。水ロケット打ち上げは、定点(決められた距離)近くに到達できるように打ち上げる技能が試されます。チーム代表の責任者(日立理科クラブ)からは、

「ジェスチャーを入れた余裕のあるスピーチや、審査員から、英語の発音のすばらしさをお褒めいただきましたよ。」という報告がありました。わずかの差で、日本代表の2チーム(佐賀県・唐津東高校、和歌山県・古佐田丘中学校)には選ばれませんでした。審査員から、チーム「かぐや」に次のようなコメントが寄せられました。

「かぐや」の皆さまは、学校以外の団体からの応募が少ない中、とてもクオリティが高いチームでした。理科も英語も好きとのことでしたが、プレゼンテーションにもそれが表れており素晴らしいかったです。実技ではチームワークを発揮し、お互いを手伝う姿勢が見えて仲間同士の絆も感じられました。

2次審査まで進んだ「かぐや」に、その成果を讃えて、主催者のJAXAより、特別奨励賞が授与されました。11月に行われる世界大会(今年で11回目)には選抜されませんが、今回の体験は貴重な大きな財産になったことでしょう。約4ヶ月間の取り組み、本当にご苦勞様でした。



文責 日立理科クラブ 特別会員 岩波 英一
日立理科クラブ事務所 TEL/FAX 0294-24-3104